

青年の翼に参加して

「第七回日中友好山梨県訪中青年の翼」に都留市からも五人が参加しました。二週間の親善日程を終えて帰ってきた五人に、目で見た中国の印象を語ってもらいました。

中国雑記

上谷三丁目 相沢容子

十月十九日から二週間ほど中国を訪れて、北京・西安・成都・桂林・上海と旅をしました。二週間という訪中期間はさして長いとはいえませんが、その間に友好があり、心のふれあいがあり、そして中国の歴史を訪ねた実り多い旅でした。

中国旅行の門戸が開かれて望めば比較的誰でもが、中国へ行くようになった現在ですが、それでもいざ行こうとなるとなかなか旅立てないものです。それが青年の翼に参加することによって、中国を旅するチャンスが到来したことは、私にとって一大事でした。

「中国情報」の日常化で、中国が身近に感じられているせいでしょうか、実際に中国に着いてみて、自分なりに抱いていたイメージや理想と大きなズレはありませんでした。

ですからトイレの問題と食物の取扱いが不衛生な点を除けばカルチャー・ショックなどという現象もありませんでした。とは言っても、中国を身近に感じられることと、実像をつかむことは次元がちがいますから、中国を深く知る為にはもっともっと多くの時間が必要なのだとも思います。

私が率直に感じた中国人の印象は、表面は質素な衣服をまとっていても、中身は非常に質の良いきれいな人間だということとです。正直で純粹だからです。万里の長城で知り合った女学生さん達もその例外ではありません。日本語を勉強中だそうで、外国語に通じない私達としては、日本語で会話が出来たことはとても助かりました。彼女達は「中日友好」を提唱している会のメンバーだそうです。

いつの日か日本に行ってみたいという夢も、頬を紅潮させて話してくれました。その顔はとても生き生きとしていて何とも言えず可愛らしかったのです。私も彼女達と今度は日本でまた会える日を待ちましよう。

それにしても民間の人達の中にそのような会があることは、私を嬉しくさせました。本当に世々代々までも友好が続いて行きますように願います。

別れ際に彼女達の一人が自分の胸につけていた会のバッジを私の胸につけてくれました。それは今では私の宝物になっています。

私の中国体験記

田野倉 長田藤子

中国の旅、十三日間を振り返ってみると、いくつもの印象深い事柄が思い出されてきます。

一つは、自分の持っていたカメラの電池が切れ、急ぎよ中国製の電池を買った時の事です。わずかに二、三度フラッシュをたいただけで電池が使えなくなっていました。

旅行社の方に伺いましたところ「日本で使われていないような電池を作れないところは、まだまだたくさんある」とのこと。私は、「世界中どこでも電池ぐらいいは同じだろうと思っていたので、とても驚きました。

◀五人で記念撮影



た。

また、四川大学へ行く時、同行して下さった通訳の邵立肅さんに、「日本と中国の違い」を聞いた時の事です。彼は「教育制度」と答えました。その理由は、わずかに四パーセントのものしか大学に行けないことを例にあげ、教える人が少ないとも、言っていました。

最後に、四川大学の女学生と話をした時の事です。彼女に「外国へ行くとしたらどこへ行きたいか」と聞くと、「アメリカ、日本、いろんな国へ行きたいが、自分は決って行けない。それはとても難しいし、チャンスがないから。」私は、この時彼女が「ネバー」と会話に入れたので、彼女の

「外国へ行きたい」という思いが強烈に感じられました。その他にも語りつくせないほど、たくさんさんの貴重な体験をさせていただきました。この旅の経験から、自分がいかに、「井の中の蛙」であったか気がつくと同時に、外国を見てきた事により、日本という国を映す鏡を持つことができました。わずかに二週間足らずでしたが、異質文化とのふれ合いの中で、自分の国・日本について、もっと深く考えなければならぬ、と痛感しました。

西安青年路小学校

田野倉 三好貴美子

悠久の歴史広大な風土、中国への長年の憧れに中国の教育に対する関心があり、私にとって中国は、最も興味ある国となっていた。今回訪中の機会に恵まれたことは、大変に幸運なことであり、深く感謝している。

なかでも小学校の訪問が、一番印象深かった。校長先生のお話によると、教育目標は四つの近代化（農業・工業・科学技術、国防）実現のための人材養成である。学校には党の指導者が常駐し